

国際シンポジウム

「東アジア文化圏の芸能にみる『大衆』～観念・実体・空間～」

日時：2019年12月14日（土）・15日（日）

場所：立教大学池袋キャンパス 5号館 5221 教室

東アジア各国・地域で「大衆」を享受者とする芸能の近代化による変容について、各国・地域の事例を単純に比較研究するのではなく、東アジア文化圏という枠組の中で位置づけていく過程で、東アジア各国・地域における「大衆」という語が示す観念、実際にどのような人々をさすのかは一様ではないこと、また各国・地域でも近40年の間で変化が認められることが明らかになった。更にはメディアの多様化などにより、各々の大衆娯楽の空間にも新たな展開がみられる。

本国際シンポジウムはこうした点に注目し、東アジアの「大衆」を享受者とする芸能を通じて、各々が享受対象とする「大衆」の実像とその提供・享受空間についての研究成果を集積・意見交換を行うのを目的として開催する。

＜プログラム＞

12月14日（土）

9：30-	受付
10:00-10:10	開会の辞 立教大学アジア地域研究所所員 細井尚子
10:10-11:50	基調講演 石 婉舜（台湾・清華大学） 「知識人與近代台灣的大眾娛樂市場—根據林搏秋の戲劇、電影軌跡來看—（知識人と近代台湾の大衆娛樂市場—林搏秋の演劇、映画の軌跡を基に—）」
昼休 11:50-13:00	
13:00-14:30	1) 劇場の作用 宮 信明（早稲田大学） 「ホール落語の定着と芸の変容——六代目三遊亭円生の昭和 30 年代——」 徐 亜湘（台湾・台北芸術大学） 「小市民的高尚娛樂——孤島時期上海綠寶劇場的話劇演出（1938-1941）（小市民の高尚な娛樂—孤島時期上海の綠宝劇場における話劇の上演（1938-1941）」
14:30-14:50	1) 質疑応答
休憩 14:50-15:00	
15:00-16:30	2) メディアを超えて 森平崇文（神戸学院大学） 「ラジオと芸能—1950 年代上海を例に」 輪島裕介（大阪大学） 「美空ひばりにおける「歌う時代劇スター」から「座長」への転身とその文化産業史意義」
16:30-16:50	2) 質疑応答

逐次通訳：中国語→日本語 細井尚子・森平崇文

日本語→中国語 詹 慕如

12月15日（日）

10:00-11:30	3) 属性をめぐって
	簡 秀珍（台湾・台北芸術大学）「台湾乱弾戯鬧西河中的「番」 漢想像和觀演的性別意識（台湾乱弾戯鬧西河の「番（少数民族）」・漢人イメージと演出におけるジェンダー）」
	洪 栄林（韓国・延世大学）「从 1950 年代樂劇和電影的結合狀況看出的后殖民和冷戰（1950 年代以降の樂劇と映画の結合狀況から見るポストコロニアルと冷戰）」
11:30-11:50	3) 質疑応答
13:00-15:15	4) 大衆性をめぐって
	中野正昭（明治大学）「筑紫美主子と佐賀にわか」
	林 于竝（台湾・台北芸術大学）「大衆演劇与日本戦後の戲劇情境～以鈴木忠志的『西哈諾』為例（大衆演劇と日本演劇の戦後的な状況；鈴木忠志の『シラノ』を例として）」
	細井尚子（立教大学）『女優』と『女役者』—初代水谷八重子から見る近代日本娛樂市場
15:15-15:45	4) 質疑応答
休憩 15:45-16:00	
16:00-17:00	ラウンド・テーブル：「大衆」～觀念・実体・空間～ 話題提供：輪島裕介 石婉舜・徐亜湘・森平崇文・輪島裕介・簡秀珍・洪栄林・中野正昭
17:00	閉会の辞 立教大学アジア地域研究所所員 細井尚子

逐次通訳：中国語→日本語 森平崇文・鈴木直子・大江千晶

日本語→中国語 詹 慕如